

めざせ!グリーンコンシューマー

持続可能な社会をめざして、環境に配慮した消費生活について学びます。教材では、身近な商品の購入や使用・廃棄の段階で消費者にできることを取り上げました。

(1) グリーンコンシューマー (Greenconsumer)

グリーンコンシューマーとは、「環境に配慮した消費者」を意味する言葉で、消費者が日常的な買い物での商品の選び方、商品の利用や廃棄の仕方を見直すことによって、経済や環境に良い影響を与えることが期待されます。

1988年にイギリスで環境により良い商品などを紹介した「グリーン・コンシューマーガイド」が出版され、アメリカやカナダなどに広まり、日本でも平成6(1994)年に「地球にやさしい買い物ガイド」が出版されました。

その後、環境に配慮したお店や商品を選ぶ運動として、世界各国でグリーンコンシューマー活動が行われるようになりました。

(2) ライフサイクルアセスメント (LCA)

ライフサイクルアセスメントとは、ある製品のライフサイクルの各段階(原料の採取→部品製造→製品製造→流通→消費・使用→廃棄・リサイクル)において発生する環境への負荷を、科学的、定量的、客観的に評価する手法のことです。

製品のライフサイクル全体の環境負荷を可視化することで、消費者による環境負荷の少ない商品選択に役立つほか、企業による環境負荷の少ない製品づくりに役立つことが期待されています。

(3) 環境家計簿

環境家計簿とは、家庭での環境負荷の発生を家計収支計算のように記録するもので、毎月使用する電気、ガス、水道、ガソリン、燃えるごみなどの量に、二酸化炭素(CO₂)排出係数を掛けて、家庭でのCO₂排出量を計算します。環境家計簿をつけることで、消費者が環境への意識を高め、生活行動の点検、見直しを継続的に行うことを期待しています。

※二酸化炭素排出係数: 電気0.355、都市ガス2.29、L Pガス6.5、水道0.36、灯油2.5、ガソリン2.3、可燃ごみ0.34 (排出係数は平成22(2010)年1月現在の最新値)

(4) フードマイレージの計算

フードマイレージ(Food Mileage 単位: t・km)は、輸入食料の総重量(t)に輸送距離(km)を掛けたもので、輸送に伴う環境負荷を示す指標です。その数値が高いほど、環境への負荷が大きいと推測できます。ただし、輸送手段や温室栽培の有無などを考慮する必要もあります。

(5) フェアトレードラベル運動と国際ネットワーク

フェアトレードラベル運動は、発展途上国の生産者の製品の販路拡充に向け、国際フェアトレード基準を設定し、基準を満たす製品にラベルを貼る取組。1988年にオランダではじまり、その後ドイツを中心に広まり、1997年には「国際フェアトレードラベル機構(FLO=Fairtrade Labeling Organizations International)」が設立されました。加盟国は、ヨーロッパほぼ全域とアメリカ、カナダ、日本の計24ヶ国。中南米、アフリカ、アジアの計60ヶ国、約800の生産者団体がFLOの生産者認証を受けています。(平成21(2009)年12月現在)

(6) 消費生活と環境についてさらに調べるには

- ・環境省「環境ラベル等データベース」 <http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/>
- ・環境省「我が家の環境大臣」 <http://www.env.go.jp/policy/wagaya/>
- ・グリーン購入ネットワーク(GPN) <http://www.gpn.jp/>
- ・フードマイレージ・キャンペーン <http://www.food-mileage.com/calculator/>
- ・フェアトレード・ラベル・ジャパン <http://www.fairtrade-jp.org/>

■授業展開例⑦「環境に配慮した消費行動について考えよう」

<学習のねらい>

- ①自分の消費行動が環境に影響を与えていることを理解し、環境に配慮した具体的な行動とその影響について考える。
- ②「グリーンコンシューマー」として、身近な商品の購入・使用・廃棄の段階での工夫について考える。

<授業展開例>

過程	主な学習活動	指導上の留意点・教材のページ
導入	○「グリーンコンシューマーの10原則」を確認し、関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンコンシューマーの概念とグリーンコンシューマー10原則を拡大表示して提示する。 <p>※教材p.25を参照</p>
展開	<p>○自分が普段の消費生活ですでに意識して取り組んでいること、これから取り組みたいと思っていることを書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要なものを買うようにしているが、無駄にしてしまうものも結構ある。 ・ペットボトルもたまに買うが、できるだけマイボトルを持っていくようにしている。など <p>○環境への影響評価として、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方を確認する。</p> <p>○グループに分かれて、「循環型社会づくり」に向けた具体的なエコ活動とその期待される効果などについて、資料をもとに話し合う。(インターネットで情報を収集してもよい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコバック(マイバック)の推進とレジ袋の削減の例 ・地産地消とフードマイレージの計算の例 ・省エネ製品の購入と使用の例 ・環境家計簿とCO2の削減効果 ・フェアトレード商品の購入 など <p>○グループで集めた情報を整理し、まとめた結果について考察を加える。</p> <p>○各グループの成果発表について意見交換を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県で推進している循環型社会づくりについて説明する。 ・ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方を説明する。 ・グループで扱うテーマに関連して、具体的な効果や影響について扱った参考資料・情報を収集し、検討、整理する。 ・資料を調べる時間、まとめる時間を確保する。 ・適宜、パワーポイントやパネルを使って他の人にわかりやすく紹介する。図表や数値を紹介する場合は資料の出所を明示するように伝える。 ・発表はグループ全員で前に出てきて行い、発表後に質疑応答を行う。
まとめ	○「循環型社会」をめざして、消費者として普段の生活レベルでできるエコ活動について、振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習を振り返り、成果を確認する。

ワークシート⑦の解答例

- 1 教材25ページを参照 2 教材25ページを参照 3 手引き26ページを参照 4 手引き26ページを参照

環境に配慮した消費行動について考えよう

1 「グリーンコンシューマーの10原則」を参考に、自分が普段の生活ですでに取り組んでいること、これから取り組みたいこととその理由を以下に書こう。

(例) マイバックやマイ箸の利用など

すでに取り組んでいること	これから取り組みたいこととその理由

2 具体的な商品・モノを購入・使用・廃棄するときの環境への配慮について考えてみよう。

商品・品物	Reduce 減らす	Reuse 再使用する	Recycle 再資源化する
例: 衣服			

3 ライフサイクルアセスメント(LCA)とは何か書いてみよう。

4 具体的なエコ活動について、その期待される効果について調べよう。

(例) エコバッグ、地産地消・フードマイレージ、省エネ製品、環境家計簿、フェアトレードなど

テーマ: ()